

専門医に聞く!



『不登校』について

小児科医 原 慶和

今回は『不登校』についてクローズアップします。不登校は病気ではありませんが、病院への受診が必要なケースもあります。不登校は、家庭背景、その子の社会スキル、学習能力、その子を取りまく環境によって大きく病状が変化します。どんなケースであっても、家族と学校が子どもを理解することが最優先です。



- 身体症状を伴う場合**

うつ病、睡眠障害、起立性調節障害、過敏性腸症候群、摂食障害、頭痛など

病院受診が必要です。症状に対する治療とカウンセリングが行われます。
- 学習での困り感を感じている場合**

知的な問題、限局性学習症、その他の神経発達症など

学校の特別支援教育で先生方の理解と適切な指導があれば、病院受診までは不要です。神経発達症が絡んでおり、二次障害が出ている場合は医療と教育との連携が必要になります。
- 人間関係で困っている場合**

環境因、虐待・いじめ、神経発達症など

人間関係の問題とは、生徒同士、先生との相性、親との仲などさまざまです。学校のなかで信頼できる教師に恵まれ、本人・家族が学校とこまめに連絡をとれば病院受診の必要はありません。関係性がこじれているケースでは、身体症状がでているものもあり、①に同じです。医療者以外には、学校以外の第3者の関わりが重要です。第3者とは、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー、教育事務所の先生、塾や家庭教師の先生、フリースクール、適応指導教室の先生、過去の信頼できる学校の先生たちです。
- 神経発達症が診断されるケース**

自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症、知的障害など

目に見える障害があきらかで、現在も将来的にも支援が必要であるケースについては、受診が必要です。発達特性の評価を行い、必要な支援についての共通理解を得るためのケース会議の開催や発達支援ファイルの作成などをしていきましょう!

嶺南地区で不登校支援を行っている機関

小浜病院、嶺南教育事務所・フレンド学級（県の適応指導教室）、各市町村の適応指導教室（ふれあいスクール（小浜）、なないろクラブ（おおい）、なないろ（美浜）、はまなす教室（高浜）、ふれあい教室（若狭）など）、その他のフリースクール（若狭町ものづくり美学舎）、児童発達支援センター・放課後デイサービス、オンライン面接可能な個別カウンセリングなど



いきいき

Pick Up!

・わたしたちが講師です! ・専門医に聞く!

vol.26

令和3年3月発行



中学校職業紹介 講師メンバー

病院理念

地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院

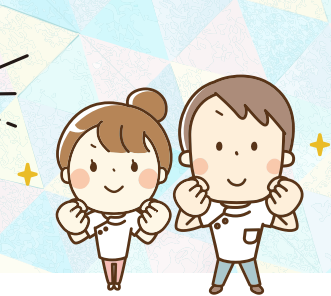
基本方針

- 1) 杉田玄白の進取の精神を受け継ぎ、良質・最新の医療を提供します。
- 2) 医療連携を推進し、中核病院として地域のニーズに応えます。
- 3) 安全・安心な医療サービスに努めます。
- 4) 公共性に配慮しつつ、健全な経営をめざします。
- 5) 教育・研修を充実させ、優れた人材を育成します。



わたしたちが講師です！

どんな仕事？なぜ？をお話しします



臨床検査技師 森谷 祐司

病理・細胞診検査を担当しています。病理検査では患者さんから採取された検体を顕微鏡観察用のガラス標本を作製し病理医が診断しています。細胞診検査では、私たち細胞検査士が顕微鏡で悪性細胞の有無等を観察し診断しています。日々、出来るだけ早く診断し、治療につながるように努めています。



診療放射線技師 秋山 聡美

放射線技師の役割は、医師が診断しやすい画像を提供することです。そのためは、レントゲン、CT、MRIなどの色々な機器を用いて画像を撮影、作成します。

良い画像を撮るためには私たち技師も病気を見つけながら撮影しなければいけません。そのほかにも、放射線を体にあてて、がんなどを治療する放射線治療というものにも技師は携わっています。放射線量を正しく使うことや、検査や治療に使う機器の日常の管理も行っています。



医療現場の現状と可能性

職業紹介講演会を行いました

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大をうけ、中学生の職場体験の受入れがありませんでした。当院では日ごろ私たちが携わっている仕事について、小浜市内にある小浜中学校、小浜第二中学校を訪問しいろいろな職種の紹介を行いました。

今回の講演会では、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、薬剤師、社会福祉士が講演会をおこないました。

仕事の内容や、なぜこの仕事を選んだのか、また仕事のやりがいなど中学生の皆さんに、画像や器具、材料などを用いて紹介しました。ドラマなどで知っている医療とは、また違った魅力を紹介できたのではないかと思います。終了後のアンケートでは、当院職員1人1人に、大きな役割があり、患者さんのために協力して医療にあたる姿を感じていただけたようです。



聴診器で心音を聞いてみよう



説明に真剣に耳を傾ける中学生



臨床工学技士 泉 貴司

高校3年生の時、進路指導室で他の工学技士養成校のパンフレットを発見。それまで見た事も聞いた

事もない職業でしたが、近隣での学校説明会やオープンキャンパスで、機械いじりが好きだった私は大変魅力を感じ、養成校に進学しました。現在は、血液浄化センターや手術センター、血管造影室等で医療機器の操作と点検を中心に業務を行っています。



薬剤師 荒木 志織

高校生の時、東日本大震災があり直接人の役に立てる医療の仕事に就きたいと考えるようになり薬

剤師を目指しました。医師の処方せんに基づいて薬を調剤し、患者さんにお渡することが主な仕事です。処方に疑問があれば医師に問い合わせる疑義照会や、患者さんに飲み方や副作用について情報提供する服薬指導など行っています。日々の業務を通して学ぶ幅広い知識をもって患者さんの役に立てる薬剤師になりたいです。



理学療法士 時下 由宇

患者さんと退院後の新しい生活の目標を共有し、毎日一緒に運動を行い、他

職種の人と情報を共有し、一つのチームとして目標達成に向け取り組んでいます。主に体の動きや生活の再適応に向け介入しています。新人の頃に脳卒中後の患者さんが退院する際に感謝の手紙を頂きました。充分なりハビリを提供できた自信がなかったのですが、その感謝に少しでも応えられるように日々の業務に取り組みたいと思いました。



看護師 河本 恵

中学生の頃に職場体験で看護師の仕事に触れ、患者さん1人1人にと向き合

うことを大切にしている姿を見て看護師を目指しました。今は地域包括ケア病棟で患者さんの体調管理だけでなく、リハビリ、地域連携室スタッフと連携をとりADL(日常生活動作)のアップや退院後の生活を視野に入れながら日々の仕事をしています。患者さんが元気に退院できた時に看護師としてのやりがいを感じます。

敦賀市立看護大学の実習生さんたち

未来の看護師、助産師を目指し、ただいま実習中

杉田玄白記念公立小浜病院では、医療スタッフを目指す学生の臨床実習病院として、毎年多くの実習生を受け入れています。

令和2年度は10月より、敦賀市立看護大学の学生さんが病棟、外来の様々な部門で実習を行い、看護、病院業務を学んでいます。今後も医療を学ぶ学生さんに「よりよく学べる場」を提供し、地域の中核病院として、未来の医療スタッフを応援していきたいと願っています。

ICUの看護師について患者さんの採血業務を見学中です。マスク、フェイスシールドを着用し感染対策も万全です。



午前中の実習の記録を取っています



当日の担当スケジュールを確認中

耳鼻いんこう科からのお知らせ

令和3年2月より小児再診の方を対象に『学童外来』をはじめました。

【受付時間】 月曜日 午後2時30分～午後4時30分(予約制)

